

「こんにちは赤ちゃん事業」 の背景にあるもの

信州大学医学部
衛生学公衆衛生学講座
野見山哲生

今、なぜ全戸訪問か？



少子化・核家族化の育児への影響

○子育てを大変と感じている母親	4ヶ月健診時	48.8% ^{*(1)}
○育児経験がないまま母親に	育児経験のない母親	54.5% ^{*(1)}
○子育てに自信が持てない母親	3ヶ月健診時	19% ^{*(2)}
○産後うつ発症		12.8% ^{*(2)}
○育児負担感是不適切な養育の一因 ^{*(1)}		

* (1) 平成16年度 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究)「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究」主任研究者 原藤洋子

* (2) 平成17年度「誰やが親子21」中間評価報告書「誰やが親子21」推進検討会

資料：厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室

こころにちは赤ちゃん事業の対象

- ・ 訪問の対象
 - 全てのお母さん
- ・ 要支援の対象
 - 子育てに不安がある
 - 子育て支援に不足しているお母さん、子ども

虐待だけをクローズアップしてはいけない
虐待担当でない支援員の寄り添い・支援が**必要**

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(概要)
社会保障審議会児童部会
児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会
第3次報告(平成19年6月22日)

- 平成17年中に子ども虐待による死亡事例として把握された70例(86人)について、心中以外の事例51例(56人)、心中事例19例(30人)それぞれについて分析
- 1 年齢 - 0歳児の死亡割合は約4割の水準 -
 - 心中以外の事例では、0歳が最も多く、約4割となっている。
(0歳児の死亡数に占める割合: H16年46.0%(23人)、H17年38.5%(20人))
- 2 動機 - 望まない妊娠は低年齢児の死亡リスクの大きな要因 -
 - 心中以外の事例の3歳未満では、望まない妊娠が25.0%、子どもがつかないことや保護を怠ったことがともに20.0%。
- 3 妊娠期の問題 - 母親自身が何らかの葛藤を有している可能性があるケースが約2割 -
 - 心中以外の事例の妊娠期の問題について、母子健康手帳未発行、望まない妊娠/計画していない妊娠、妊婦健診未受診の3つのいずれかがあった子どもは17.9%(10人)。
- 4 地域社会との接触 - 地域社会との接触が乏しい事例が約7割 -
 - 心中以外の事例では、平成16年の検証結果と同様に、地域社会との接触がほとんどないもしくは乏しいと考えられる家庭の割合が高く、69.5%(16例)となっていた(心中事例では15.8%:3例)。

報告事例により明らかとなった課題に対する提言（抜粋）

【提言1】関係機関の連携

- 地域の実情に応じ、医療機関からの保健機関等への情報提供や相互の連携強化のための地域保健医療連携システムを構築
- 出生前後を問わず特に支援が必要なケースについて、要保護児童対策地域協議会の場等で対応を検討
- 対象ケースが生活保護受給者等である場合には、要保護児童対策地域協議会の調整機能においてケース検討会議の場を活用し、関係機関等との間で密接に情報を交換・共有

【提言2】妊娠・出産期の相談支援

- 妊娠・出産についての悩みを抱える女性への相談支援の取組や、育児に関する悩みを抱えている保護者に差別的対応を実施している児童相談所等を広く周知
- 出産後は、本年度スタートした「生後4か月までの全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）」により、ハイリスクの者を早期に把握し、必要に応じて「育児支援家庭訪問事業」により適切な支援を実施

【提言3】精神障害を産後うつへの対応

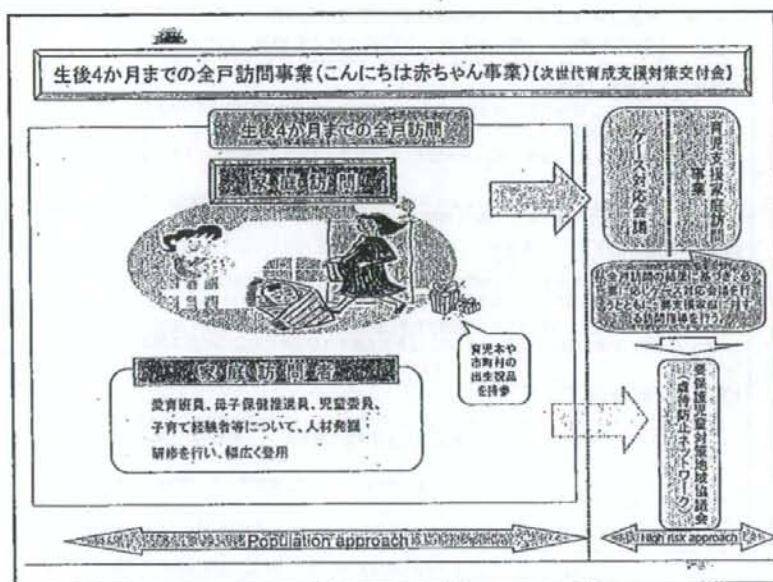
- 産後うつ等のハイリスクの者を早期に把握するため、「生後4か月までの全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）」が全市町村で実施されるよう普及、育児支援家庭訪問事業との一本化を図り、適切に相談支援につなげるシステムを構築
- 精神疾患のある保護者等への適切な対応のため、地域の実情に応じ、児童相談所への保健師配置、保健所等の連携強化を検討
- 課題1の「地域保健医療連携システム」で精神的問題を抱えるケースも対応できる体制となるよう検討

資料：厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室

母子保健領域に期待される子育て支援と虐待防止対策

- 妊娠期等早期からの要支援家庭の把握
→ 地域保健医療連携システムを構築し、医療機関との連携により情報収集等
- 妊娠期及び産後早期の支援の充実
→ 望まない妊娠等妊娠葛藤の相談事業、両親教室、妊産婦訪問、新生児訪問の充実、生後4か月までの全戸訪問事業等の実施等
- 母乳栄養の推進と支援
→ 母乳相談、栄養指導の充実、専門機関の紹介等
- 産後うつの発見と早期対応
→ EPDSを始めとした産後うつや育児不安のスクリーニングの実施とハイスコア者への支援等
- 家庭の養育力の向上のための支援
→ 育児相談、育児支援家庭訪問事業、親支援プログラム等の実施、子育て支援事業の情報提供等
- 虐待家庭への支援
→ 児童相談所等と連携した直接支援、要保護児童対策地域協議会への参加等

資料：厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室



こんにちは赤ちゃん事業を 始めるにあたって

先進事例の提示はあった。

しかし...

どのようなツールを使って要支援かどうかを見極めるか、どのような人(職種)が訪問するか、訪問する人はどのように訪問するのか、また訪問結果をどう支援に結びつけていくか、実際に支援していくか、またどのような人が支援していくか、また、訪問員、訪問員支援員がどのような研修を積めば良いのか、が漠としていた。

厚生労働科学研究推進体制

厚生労働科学研究班「医療ネグレクトにおける医療・福祉司
法が連携した対応のあり方に関する研究」

- 分担研究班：家庭訪問員及び支援に関わる専門職の教育プログラム
の開発及び要支援家庭抽出の為のスクリーニング法確立の為の調査研究事業

・責任者

- 野見山哲生 信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座教授 医師

・信州大学内協力研究者

- 小池健一 信州大学医学部小児医学講座教授、医学部附属病院長 医師
- 市川元基 信州大学医学部保健学科教授、保健学科長 医師
- 坂口けさみ 信州大学医学部保健学科教授、看護学専攻長 助産師
- 金井 誠 信州大学医学部保健学科教授 医師
- 和田敏仁 信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座准教授 医師
- 塚原照臣 信州大学健康安全センター講師 医師
- 堀 綾 信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座 医師

・県外

- ハネシー澄子 東京福祉大学名誉教授、関西学院大学客員教授
- 白石淑江 同朋大学社会福祉学部教授

厚生労働科学研究班

家庭訪問員及び支援に関わる専門職の教育プログラムの開発及び
要支援家庭抽出の為のスクリーニング法確立の為の調査研究事業

目的

米国の児童虐待対策で実績のある「健康な家族アメリカ
(HFA)」プログラムを参考にし、本邦で実効性のある改
変を行い個別訪問と要支援家庭への育児支援に携わる保健師
や個別訪問員等の育成を行い、複数の市町村で導入、実施後
の効果を検証する、ことを目的とする。その為、

- ① 個別訪問者の要支援家庭抽出の為の簡便なチェックリストの開発と運用
- ② 保健師以外の個別訪問者及び要支援家庭訪問を行う保健師の育成プログラムの構築と運用
- ③ 個別訪問、要支援家庭訪問時に親に提供する資料の開発、といった支援プログラムの検討と運用

を行う。更に以下についても検討する。

- ① 要支援家庭個別訪問の有効性評価
- ② 保育環境における保育士による要支援家庭抽出の簡便なチェックリストの開発と運用

信州エリアにおける展開

・「こんにちは赤ちゃん事業」への一定の標準化された方法の適用

- ①個別訪問者の要支援家庭抽出のチェックリスト運用と効果的項目の抽出
- ②訪問者及び要支援家庭訪問を行う訪問員支援員の育成プログラムの運用
- ③個別訪問、要支援家庭訪問時に親に提供する資料の開発
- ④支援プログラムの運用、効果の評価

訪問者および支援員に対する講習会

1. 「こんにちは赤ちゃん事業」の概要
2. 妊娠から出産まで—母親と胎児—
 - ・妊娠中の生活と胎児への影響について
 - ・妊娠による母親の精神状態への影響について
3. 新生児期～乳児期の発達について
 - ・小児の正常な発達
 - ・児童虐待が発達に与える影響について
4. 訪問時のコミュニケーションについて

訪問員、訪問員支援員

対象

- 訪問員
 - ・主任児童委員
 - ・民生委員
 - ・子育て支援団体関係者
 - ・訪問員支援員の対象者
- 訪問員支援員（スーパーバイザー）
 - ・保健師
 - ・助産師
 - ・看護師
 - ・臨床心理士、産業カウンセラー
 - ・養護教諭・保育士退職者
 - ・社会福祉士

訪問員、訪問員支援員

訪問員、訪問員支援員としての適正

- 基本的なスタンス
 - ・母親に寄り添える
 - ・相手の考え方を尊重する
 - ・個人情報を守る（情報共有と別次元の話）
- チームで仕事に取り組める
 - ・それぞれの立場を尊重
 - ・情報共有
 - 医療職との連携
 - 情報のよどみが無いこと
 - 一人、一部で抱えない！

助産師の立場から

講師 坂口 けさみ

(信州大学医学部教授)

こんにちは 赤ちゃん事業
—助産師の立場から—

信州大学医学部保健学科
坂口 けさみ

本日の予定

1. 妊娠・出産に関する最新の知見
2. 赤ちゃんがやってきた
3. 生後3ヶ月頃の赤ちゃんの発育と母親の心配事
4. まとめ

妊娠・出産に関する最新の知見

おなかの赤ちゃんに母親の気持ちは伝わるか？

- 楽しい音楽を聴かせる母親と、悲しい場面を体験させる母親において、胎児の状態や行動・動きを超音波で観察した。
- 母親がうれしいとき、胎児の手首が特に顕著に動いていた。母親が悲しいとき、胎児は静かにしていた。
- うれしいとき→悲しいとき→うれしいときの順番で胎児の状態を観察したが、うれしいときは胎児の手首は活発に動き、悲しいときには静かになった。
- このことから①悲しいことがあっても、うれしいことがあれば胎児は元に戻る ②母親の感情に伴って胎児は異なる動きをしていることが推測される。

生まれてきた我が子に 母親が最初にかける言葉ランキング

(19. 11. 16信越放送)

1. ありがとう(無事に生まれてきてくれて) 44人
2. やっと会えたね、待ってたよ 11人
3. こんにちは 10人
4. よくがんばったね 8人
5. おつかれさま 5人

赤ちゃんの視覚と微笑について

- 赤ちゃんは目の前にあるものを注視できる。
- 物まねもできる。
- 赤ちゃんに接するときは正面から接し、目を見つめること。
- 赤ちゃんは自発的微笑によって人を引きつける。
- 赤ちゃんの自発的微笑は、その後社会的微笑へと変化する。すなわち周りの刺激や反応に応じてしか反応しない。

赤ちゃんの臭いについて

- ① 赤ちゃんは母親の臭いを嗅ぎ分けている。
- ② 母親は赤ちゃんの臭いを嗅ぎ分けている。
- ③ 母親と赤ちゃんはそれぞれの臭いによって、安心したり、母性意識や幸福感が増加したりしている。すなわち、お互いの臭いによって2人の絆がより強まっていくものと推測される。

赤ちゃんの言葉に対する反応について

赤ちゃんには人の声が聞こえているのか？

赤ちゃんに話しかける言葉の特徴について

目の前に赤ちゃんがいる

目の前に大人がいる

例:それぞれの場合において童話を読み聞かせる。

<特徴>話す相手が赤ちゃんの場合、話し方がゆっくりであり、
適当に抑揚があり、はっきりとした高い声で話している。

母親が赤ちゃんやこどもに話す
言葉を「マザリース」という。

赤ちゃんやこどもは
「マザリース」に対して興味を
示し、自分に注意を向けていると
認知する。

赤ちゃんへの語りかけと言葉の理解について

- 赤ちゃんは人の声とそうでない音を聞き分けている。
- 赤ちゃんは、人の声に対して同調するように体で一生懸命に反応している。
- 大人は知らず知らずのうちに赤ちゃんが最も聞き取りやすい口調で、赤ちゃんに話しかけている。

基本的信頼関係形成の重要性(エリクソン)

母と子の初期の人間関係は、人間が一生の間に持ついろいろな人間関係＝信頼関係の原型となる。

乳幼児は、母親を介して外界と交渉を開始する。その中心的な役割を果たすものが授乳であり、安心して乳を吸うという行為は、安心して外界を受け入れるという精神活動の原型となる。これをエリクソンは基本的信頼関係の礎と指摘し、1歳頃までに獲得しておかなければならない発達課題の最初の課題として重要視している。

母親からのシグナル
抱っこ・語りかけなど

児からのシグナル
泣く・笑うなど

シグナルに気づく・適切に反応することが重要

相手の悲しみを感じとる感性はどのように
培われていくのか：パロン

自分のことを喜びとしてみしてくれる、対応してくれる



この基盤がなければ決して人の悲しみを感じとることはできない

生まれた直後：無意識に、目の前にあるものに微笑する。
2～3か月後：ある程度の意志を持って微笑という形で相手に
反応する。
その後：こちら(子ども)も喜んで笑っているので、自分に
反応している相手も、やっていることを喜んで
やっていなければ子どもはその事を満足しない。

心が同調する経験 大切にされているという経験

赤ちゃんがやってきた

(母親の育児日誌より)

<1ヶ月頃まで>

- ・おっぱい以外ほとんど寝ている。
- ・1日に8～10回のおっぱい
- ・オムツ換えは1日10回以上で、うんちも5～6回あり。
- ・おっぱいが張って痛い。うまく飲めない。
- ・自分も赤ちゃんも慣れていないのでおっぱいに苦労する。
- ・1ヶ月までとにかくおっぱいに苦労した。
- ・生活ベースがすっかり変わる。昼も夜もない生活。母はいつも眠い。
- ・身体が本調子でない。身体が重い。
- ・ちよつとのことが心配だった。
- ・お互い気を張っていた。

<生後2ヶ月頃>

- ・授乳のペースができてくる。
- ・2か月半くらいから夜の授乳が4時間あいたりするようになった。
- ・お喋りを沢山するようになる。
- ・あやすと笑顔を見せるようになる。
- ・目が合うようになる。
- ・眠い時、おっぱいが欲しい時、抱っこして欲しい時とか、何となく泣き方が違って来た。おっぱいは激しく泣く。それ以外は甘えたような泣き声。
- ・抱っこすると腕や肩につかまるようになる。
- ・縦抱きが好き。縦抱きすると色々な所をよく見ている。
- ・遊んでくれた人がどこか違う所へ行くと目で追う。
- ・自分の手にも興味津々でなめている。
- ・母は気持ちにたいぶ余裕が出て来た。慣れてきた。

保護者の記録【3～4か月頃】(年月日記録)

母子健康手帳より

- 首がすわりましたか。(すわった時期: 月日頃)
- あやすとよく笑いますか。
- 目つきや目の動きがおかしいのではないかと気になりますか。
- 見えない方向から声をかけてみると、そちらの方を見ようとしますか。
- 外気浴をしていますか。
- 子育てについて困難を感じることはありますか。
- 育児の心配、かかった病気、感想などを自由に記入しましょう。

初産婦における心配事上位10項目

産後2週間	産後1ヶ月	産後2ヶ月	産後3ヶ月
1. 母乳不足	1. 母乳不足	1. 母乳不足	1. 皮膚
2. 授乳間隔	2. 皮膚	2. 皮膚	2. しゃっくり
3. 排気	3. しゃっくり	3. 授乳間隔	3. 外気浴
4. しゃっくり	4. 排気	4. 泣く理由	4. 授乳間隔
5. ミルク量	5. 授乳間隔	5. 飲みのムラ	5. 母乳不足
6. 泣く理由	6. ミルク量	6. しゃっくり	6. 飲みのムラ
7. 飲みのムラ	7. 泣く理由	7. 寝つき	7. 生活リズム
8. 家事育児の 両立	8. 外気浴	8. 便	8. 便
9. 皮膚	9. 便	9. 外気浴	9. 寝つき
10. 児の体重	10. 飲みのムラ	10. 排気	10. 泣く理由

経産婦における心配事上位10項目

産後2週間

産後1ヶ月

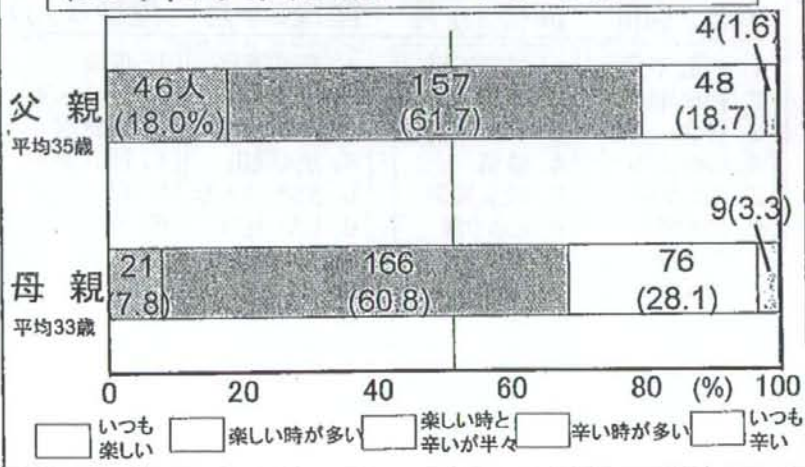
産後2～3ヶ月

1. 母乳不足
2. ミルク量
3. 家事育児の両立
4. 乳房トラブル
5. 児の体重
6. 飲みのムラ
7. 外出
8. 授乳間隔
9. 便
10. 母の体重

1. 母乳不足
2. 児の体重
3. 母の体重
4. 目やに
5. 飲みのムラ
6. 皮膚
7. しゃっくり
8. 授乳間隔
9. 外出
10. 睡眠不足

1. 母乳不足
2. 皮膚
3. 授乳間隔
4. 飲みのムラ
5. 外出
6. 外気浴
7. 母の体重
8. 排気
9. 授乳時間
10. ミルク量

子育ての楽しさ (03年松本市; 父親=255人、母親272人)



子育てが辛いと感じる時

- ・赤ちゃんの泣いている理由がわからない。
- ・抱っこしても泣きやまない。
- ・さっき飲ませたのにすぐに泣く。
- ・相談する相手が近くにいない。
- ・誰にも相談できない。
- ・相談しても皆言うことが違う。
- ・夫の帰りが遅い。
- ・よく眠れない。

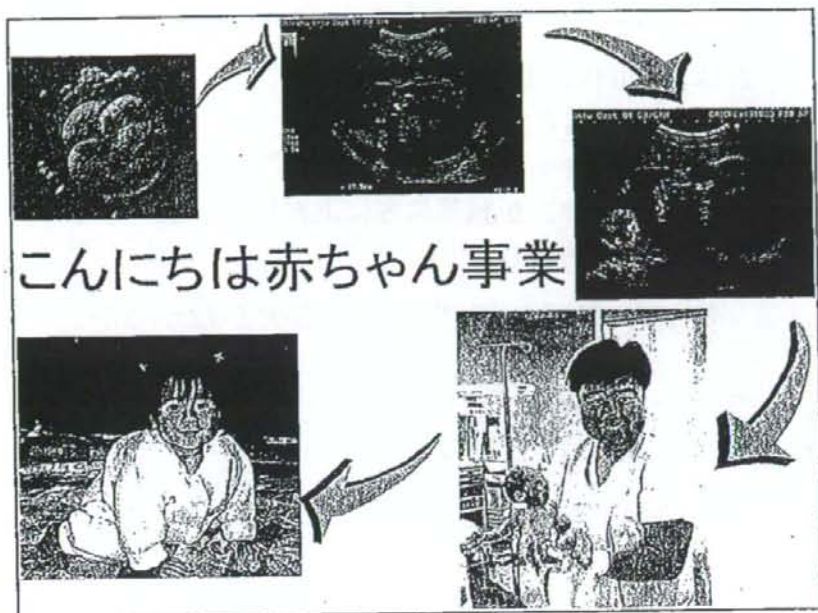
まとめ

1. 母親の話をじっくりと聴く。
 - ・子育ての感想や大変なこと
 - ・子育ての楽しいこと
 - ・赤ちゃんへの気持ち など
2. がんばってことをほめること。
3. わからないことはむやみに答えない。
4. 気になるケースは次へつなげること。

妊娠から出産まで
—母親と胎児—

講師 金井 誠

(信州大学医学部教授)



妊娠・出産・育児期間の
訪問支援

昔は、・3世代、4世代が同居
・近所付き合いが緊密
・道で会った近所の方達がすぐに話しかけてきた
・近所の方が頻繁に家に上がり込んで、
茶飲み話していた

妊娠や育児の相談相手に事欠かなかった

今は、・核家族化
・近所付き合いの希薄化

妊娠や育児の相談相手がいない

